

【高校生部門】優秀賞

10年後の母へ

群馬県立大間々高等学校 3年 青木 遥乃

私のお母さん、なんて題名で書いた、小学生の時の作文を思い出します。きっとあなたはもう覚えていないでしょう。私は幼い頭で考えたその作文を得意げに読んでみせたこと、今でも覚えています。感動して泣いてくれたあなたのことも、ずっと覚えています。

今、家族でありながら別々の場所で生活をしている私達は、いつの間にかでき上がっていたが厚い壁にさえぎられています。何度もケンカをしている内に、お互い向き合うことができなくなりました。感情に任せて、あなたを傷付けました。あなたも私を理解しようとはしなかった。それがいけないと気付いていながら、歩み寄ることができなかったことは、私達の弱さでしょうか。

私はピアノが大好きです。昔はよく、私の演奏を聴いてくれましたね。あなたにほめられることが嬉しくてたまらなかったけれど、いつからかあなたの前でピアノを弾くことはなくなりました。それが少しだけ寂しいなんて高校生になった今でも、思っています。初めて買ったもらったキーボードは安いものだったかもしれないけれど、私にとっては宝物でした。父のいない貧しい家庭の中で、ピアノを習わせてくれてありがとう。お陰で今でもピアノが大好きです。きっと10年後も、その先も。

思えばケンカの原因はどれも小さなことでした。その度に酷いことを言ったり言われたり繰り返します。そんな些細なことをどうして気にせずに行なわれたのか、今となってはわかりません。だけど今、そのことを酷く後悔していることを伝えたいのです。今すぐに壁を乗り越えることはできないでしょう。だから10年後、私が大人になって、今の様な幼稚な感情が消え去って、私達の間に来た壁が風化した頃、会いに行こうと思います。大人になつて、スーツを着た私を見て、あなたはどんな顔をするのだろうかと思うと少しだけドキドキします。今のことは忘れ去って、沢山笑い合えたらいいな。一緒にお買い物をしたり、ご飯を食べたり、今できないこと、親孝行を精一杯させてほしいです。そしてたまにはピアノを聴いてください。その時は昔のようにほめてほしいです。だからどうか、私が意地を張るのをやめられるまで、待っていてください。きっと10年かかるけれど、その時は手紙じゃなくて、直接ありがとうとごめんなさいを言わせてください。お母さん、私はもう一度、あなたと話がしたいです。